皆さん、おはようございます。本日、ここに新たな本科学生215名、編入生4名、専攻科学生45名を本校に迎えることができ、教職員一同大きな喜びを感じております。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。今年は例年と比べて桜の開花が遅くなっており、今がちょうど見頃になりました。今日はあいにくの天気ですが、校内にある桜の木もきれいに咲き誇って、皆さんの入学を祝って迎えてくれています。

本日ここにお集まりのご家族や保護者の皆様も大きな喜びとご期待を感じておられることと思います。高いところからではありますが、お祝いを申し上げます。

さらに、お忙しい中、また足下が悪い中にもかかわらず、本日の入学式にご参列をいただきましたご来賓の皆様には厚く御礼を申し上げます。

新入生の皆さんは、これからの人生を歩むにあたっての人間形成、成長の場に本校を選択しました。同じ年齢の大多数が高等学校さらには大学へ進もうとしている中で、高等専門学校を進路に選んだのには、皆さんそれぞれが高専への強い期待や確固とした意志があってのことでしょう。

私ども教職員一同は、皆さんの期待や意思に応えて、皆さんそれぞれが抱いている夢、目標に近づけられるよう、皆さんの成長を力強く手助けしていきます。

ここで「手助け」と申しましたが、それは成長する主役・主人公は皆さん一人一人であるからです。本科生の皆さんは15歳から成人となる20歳までの最も成長する時期を本校で過ごします。新入生の皆さんのそれぞれが自らの意思でもって自らを鍛えて、社会で活躍できる個性豊かな大人へと成長されんことを期待しています。よろしくお願いいたします。

ところで、本校、久留米高専は今年高等専門学校として創立60周年を迎えました。しかしながら本校は昭和14年（1939年）に設立された久留米高等工業学校を前身としており、そこから数えますと高等教育機関としてすでに85年の歴史がありこれは他の高専にない長い歴史です。

高等専門学校は我が国独自の教育制度です。現在の高専制度ができたのは今から62年前のことです。一昨年の高専創立60周年を記念して高専を象徴するキャッチフレーズが作られました。それは「**たゆまぬ挑戦、飛躍の高専！**」です。このキャッチフレーズはもちろん高専生全員に当てはまります。すなわち「**たゆまぬ挑戦、飛躍の久留米高専生！**」です

皆さんの入学にあたって、少し高等専門学校、高専についてお話ししましょう。

我が国のすべての学校は、学校教育法と呼ばれる法律によって定められています。皆さんが歩んできた幼稚園、小学校、中学校に加えて、高等学校、大学、さらに本校のような高専もこの学校教育法の中でその基本となる目的や制度が定められています。

皆さんは、高専は中学校に続く教育機関で、高等学校より２年長く５年間にわたってある専門分野について勉強する学校と思っていることでしょう。確かにそれは間違いありません。ですが、先ほど述べた学校教育法の中では、高等学校と高専は性格が違う学校として定められています。

学校教育には人の発達段階によって大きく、初等教育、中等教育、高等教育の３種類に分けられています。小学校までが初等教育、中学校・高等学校が中等教育、大学は高等教育を行う学校とされています。このように分けるのは、学校教育の目的とともに、それに合わせて制度や教育の方法などが違うためです。

学校教育法での高等学校の目的は、その第50条において「中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。」となっています。

一方、高専は第115条において「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定められています。だいぶ書きっぷりが違います。

すなわち、高等学校では「教育を施すこと」を目的とするのに対して、

高専では「能力を育成すること」を目的としています。

　そのために、中学校に続くところの中等教育の機関とされている高等学校と違って、皆さんが入学した高専は、大学と同じ高等教育の機関として定められています。

　それでは高等教育とはどういう教育でしょうか？

　いろいろと言われ方がありますが、例えばWikipediaをググってみると、高等教育とは、

「中等教育における学修（学び修める）を受けて、学修の成果として学位などの学術称号や認証あるいは資格が授与される教育課程」

　となっています。すなわち、皆さんが本校を卒業するときには学術称号である学位が付与されます。高専本科では準学士という称号です。

　ちなみに、大学や高専の専攻科では「学士」、さらにその上の大学院の前期課程では「修士」、大学院の後期課程まで修めると「博士」という学位が得られます。博士が最高位ですね。よく漫画やドラマでは、とびっきりの知識人が「〜博士」あるいはドクター、ドクとして登場します。

　皆さんが先日中学校を卒業した時に受け取った卒業証書には、あまり気がつかなかったかもしれませんが、「中学校で定められた課程を終えたことを証明する」といった文言が記されていたと思います。高等学校の卒業証書もほぼ同様の記述がなされます。

　一方、高専の卒業証書には、定められた課程の修了とともに、それだけで終わらずに、準学士の学位が与えられたことも記されます。

　専攻科の場合は、大学卒業と同じ学士の称号が大学改革支援・学位授与機構の認定によって与えられますので、修了証書に加えて別に学位記と呼ばれるものが手渡されます。

　このように、高等学校の卒業証書にはそこでの教育課程を修めたことのみが記されているのに対して、高専の卒業証書にはそれに加えて学位

を取得したことまで記されます。これは、先ほど申したように高校と高専の目的が異なるためであり、中等教育と高等教育の違いが目に見えてわかる一例です。

これから学校生活を始めようと入学したばかりの皆さんが、５年後あるいは２年後の卒業・修了の時のことを聞かされてもピンとこないかもしれませんが、同じように決められた教育課程を終えたのに、この違いは何を意味するのでしょうか？　すなわち、「学位」とはなんでしょうか？

「学位」とは簡単に言えば、その人が「能力」を持っていることを示すものなのです。学校教育法でもそのように定められています。

ですから、高専や大学などの高等教育機関では、Diploma Policyと呼ばれる卒業する者が備わっている能力、すなわち～ができることがそれぞれ明示されています。

本校でも機械工学、電気電子工学、制御情報工学、生物・応用化学、材料システム工学のそれぞれ５学科で、さらに専攻科でそれぞれ異なるDiploma Policyが決められており、本校のホームページや皆さんが持っている学生便覧で記されています。

このDiploma Policyを達成する、すなわち皆さんがそれぞれ専門技術者として求められる能力を身につけてもらうために、各学科の教育課程が組まれています。本校ではどの学科でも最終学年の５年生で卒業研究を行って卒業論文を作成することになっています。卒業研究と論文は高等学校の教育課程にはありません。

卒業研究では、これまで誰もやったことがない研究課題に取り組みます。すなわち、教科書などには載っていない未知の課題について、実験や計算、解析などを行い、そこで得られた結果を基にして論理的な考察を行うことでこれまで知られていなかった新しい知見を導きます。このことによって、自分が持っている知識や技術を使って、与えられた課題を解決する能力が養われます。このような教育方法は大学と同じです。

実は、皆さんの左右に並ばれている本校の教員、高専の教員には、中学や高校のように一律に教師ではなく、経験や能力によって大学と同じように教授、准教授、助教という職位があります。

高等学校の教育課程は、文部科学省が定めた教育指導要領、すなわち～を教えなさいに従って組まれていて、文部科学省の審査と認定を受けた教科書を授業で使います。その教師になるためには教員免許が必要です。

一方、高専ではこのような一律に決められた教育指導要領はありません。それぞれの学校で定めた教育方針Curriculum Policyに則ってその分野の専門家である各教員の裁量でもって授業内容が決められています。教科書も教員の裁量で選択されます。

そのため、高専での教育に携わる教員には教員免許は必要なく、その替わりに高度な専門性が求められています。これも中等教育と高等教育の目的と性格の違いによるものです。

少し小難しくなりましたので、皆さんに親しみやすく高校と高専の教育課程の違いを食事に例えてみるならば、高等学校での教育課程は吟味された食材で料理されて食卓に並べられた定食あるいはフルコースのようなものです。学生は目の前に差し出された食事をいただけば、安心してバランスがとれた栄養が得られて、健康に過ごすことができて体も成長します。

一方、高専の教育は皆さんそれぞれの能力開発を目的としますので、生の食材とまでは言いませんが、少し下ごしらえした様々な食材が提供されるのに例えられるかもしれません。これらの下ごしらえがなされた食材を使って、皆さんが自分で調理することで栄養バランスが取れた食事にして楽しみます。調理次第では定食では得られない自分の舌に合ったあるいは期待以上の美味しい食事になるかもしれません。一方、調理次第では不味くなってしまうことだってあり得ます。ここはちょっと要注意です。

高専ではこの調理の一部に例えられる実験や実習教育に重きを置いていますし、先ほど述べた卒業研究はその集大成となります。

高専では、通常の授業課程に加えて、様々なコンテストが行われています。決められた機能と作業を行うロボットを独自のアイデアで製作してその性能を競うロボコンは、毎年NHKのテレビで放映されていますので、よく知られています。そのほかにも、コンピューターで目的の解析や演算を行うプログラムを競うプログラムコンテスト、プロコンや、深層学習Deep Learningによるデータ処理ををもとにした新たなビジネスの企画・提案を競うD-conや女子学生の企画力を競うG-Conなど多彩です。

このようなコンテストは自分の知識や技術を活かして形あるものにする能力を磨く絶好の機会です。すなわち調理の腕を上げる絶好の機会です。

是非とも皆さんには決められた授業を受けるだけでなく、これらの課外活動にも積極的に参加して自身の能力を高めてください。言い換えると調理の腕をあげて、自分好みの美味しい食事を楽しんでください。授業で扱わない食材や調味料は図書館などに行けばありますので、自分独自の味付けは十分に可能です。

和食、フランス料理、イタリア料理、中華料理、韓国料理などの料理の種類が、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、生物応用化学、材料システム工学の各学科専門分野に対応するなら、それぞれの料理の基本レシピの上に自分を味を作ることができる、それが高等教育機関である高専に来た醍醐味です。

皆さんは15歳から20歳、さらには22歳までの人として最も成長する時期をこの久留米高専で過ごします。自分の人生を豊かにするために、自身の能力を開発するために貪欲に取り組んでください。必ず、その成果が手応えとしてあります。

能力は知識だけで身につくものではありません。自ら頭を動かし体を

動かして試してみて、試行錯誤や失敗を繰り返すことによって初めて能力が身についていきます。

是非とも社会に出る前に、この久留米高専において自分に得意な能力を一つでも多く身につけて個性と自信を育み、グローバル化した未来の社会で自分自身のために、人のために大いに活躍できる人になっていただきたいと強く願っています。

少し長くなりましたが、新入生の皆さんを本校に迎えるにあたっての告辞といたします。

令和6年4月3日

久留米工業高等専門学校　校長　松村　晶